

令和元年度（2019年度） 「地質調査技士登録更新講習会」報告

技術委員会

令和元年度の東北地区の地質調査技士登録更新講習会は、令和元年11月25日（月）に「仙台国際センター」で開催されました。

登録更新は、平成25年度から①登録更新講習会により更新する方法と、②CPDの取得による更新の何れかを選択する方法があります。今年度東北地区では、講習受講者251名（CPDによる更新者は1名）での講習会となりました。

講習は、テキストの内容に併せて第I編から第IV編の4つの講義が実施されました。第I編の「地質調査業について」では、「地質調査の領域」「地質調査業の市場動向」「入札・契約方式」「地質調査業をとりまく新たな社会・技術動向」「地質情報の電子化・利活用に関する動向」「産業としての事業活動」などについて説明がなされ、業界を取り巻く環境が年々変化していることが再認識されました。また、「国土地盤情報センター（NGIC）」による地盤情報のデータ収集・データベース化と利活用に向けた取り組みを紹介し、地盤情報の重要性が一層高まったことにより、受講生は地質調査技士としてのやりがいや責任感を改めて感じたことと思います。

第II編の「地質調査技術者について」では、「地質調査技術者の職務分野と資格制度」「地質調査技術者の資格制度と教育システム」「技術者と倫理」について説

明がなされ、地質調査技術者としてのあるべき姿、自己研鑽の必要性を再認識しました。また、土質・地質技術者生涯学習協議会（ジオ・スクーリングネット）による「CPDを活用した更新制度」や、業界のイメージアップ・担い手の確保のための情報発信活動として、全地連が一般向けにわかりやすく作成した地質調査技術者のPR動画「社会を守るジオ・アドバイザー 地質調査技術者」の紹介もありました。

第III編の「調査ボーリングの基本技術と安全・現場管理のレビュー」では、ボーリング調査に関する基本技術（仮設、掘進技術、孔内試験等）・安全及び現場管理の目的・方法・留意点の再確認を行うとともに、「かし」による損害賠償の事例紹介がありました。

第IV編の「調査ボーリングの周辺技術動向」では、「土壌汚染調査」「物理探査」「地盤材料試験」「地質情報の三次元化技術と利活用」について説明がありました。特に国土交通省が本格的に取り組んでいる建設生産プロセス全体の効率化・高度化を図るためにICTなど先端技術を導入したi-Construction、CIMについては、地質技術者には地質調査の成果をしっかりと反映させる責任があることを認識していただけたと思います。

本講習に用いた令和元年度テキストは、最新の技術動向が反映されたものとなっております。引き続き地質調査技士としての技術の研鑽にご利用頂けるよう、お願い申し上げます。

最後に、丸1日という長時間にわたる講習会が、多忙のなか受講者の皆様のご協力のおかげで無事に終えることができましたことに対し技術委員・事務局一同心より感謝申し上げます。



登録更新講習会の受講状況